さくらこども園だより

令和７年１月９日
御前崎市立さくらこども園

新しい年が始まり、１月後半です。吹く風は冷たいのですが、春を告げる草花は小さな花を咲かせ、少しずつ春を迎える準備を始めたようです。「１月は行く、２月は逃げる、３月は去る」などという言い方をしますが、この時期は毎日が忙しく、あっという間に過ぎてしまします。

学年の締めくくりでもあるこの時期は、３・４・５歳児の子ども達は進級、入学への期待が意欲につながります。０・１・２歳児の子ども達の動き、言葉などには可愛らしい中にも逞しさを感じたりして、ますます大きくなったと感じたりするようになってきます。子どもたちが今までに身に付けてきた力を十分発揮しながら、友達や先生達と充実した楽しい生活を過ごせるようにしたいと思います。

寒さが増して、体調を崩しやすい時期です

～「水分補給」も大事な予防策のひとつ ～

園では、夏に熱中症予防として行っていた 30 分毎の水分補給を感染症予防として継続しています。

風邪やインフルエンザの原因となるウィルスは、乾燥した状態で活発に活動し、反対に湿度 50%以上になると活動が急激に低下します。水分補給は喉や鼻の粘膜を潤してウィルスの侵入を防ぐと同時に、侵入したウィルスをたんや鼻水によって対外に排出する作用を助けます。冬の水分補給もしっかり行いましょう。

～下痢について～

下痢のほとんどは、ウィルス性の感染症です。症状が治まった後も１週間から１か月間は便にウィルスが排出され続けるものもあります。

下痢、腹痛、嘔吐などは、感冒性胃腸炎の症状としても多く確認されています。

園で子ども達は手洗い、うがいをして、感染予防をしていますが、全てのウィルスがなくなることはありません。子どもは口や鼻に手を持っていったり、食べ物を手づかみで食べたりすることが多いので、ウィルスを体内に取り込むリスクが高いです。

また、長時間にわたって集団で過ごすこども園ではウィルスが拡がりやすく、重症化してしまうお子さんもいます。症状が出ている間は登園を控え、自宅で療養してください。

●嘔吐物で汚れた衣類や寝具を水で濯いだり、洗ったりすることにより、感染症が拡大してしまう恐れがあります。園で嘔吐してしまった場合は、汚れた衣類や寝具は水で濯がずにお返しします。ご承知おきください。

１月１５日（火）に　どんど焼きをします！

お正月飾りを焚き上げる日で焼いた餅を食べると１年を健康で過ごせると言われています。

幼児部の子ども達が、魔よけの力があるという小豆を煮て、焼いたおはたき餅を入れて、お汁粉を食べて無病息災を願います。

当日、正月飾りや書初めなど、燃やせるものがありましたら、ぜひお子さんに持たせてください。